いわき民報
發行所 いわき民報社
平市田町四八番地 電一七六番
編輯兼發行人 千輝克巳
兼印刷人
（但月曜を除く）
定價一ヶ月十円一部五十錢

衣料品登錄店 資格審査終る

平市内では二十八店がパス

二十八日行う衣料品の登錄制にもとづく石城地區小賣業者の資格審査委員會は二十五日午前十時から平食糧樓上に開催、郡下から立候補した百六十七店の有無を檢討したが四店が施設その他不充分でオミットされ結局百六十三店がパスした、なお平市内の店舗はつぎの二十八店

三井呉服店（柏原秀藏）新川町、鱗與支店（橋本義司）四丁目、中野洋品店（中野勇雄）二丁目、齊藤呉服店（齊藤啓次）南町、ハシモトヤ糸店（眞根井嘉門）田町、平生活協同購買利用組合（諸橋敬一郎）五丁目、吉田屋呉服店（吉田祐三郎）鍛冶町、眞砂屋（猪狩四郎）田町、かみや呉服店（山崎賢助）二丁目、仙台屋呉服店（明智榮司）二丁目、小野榮呉服店（小野榮治）四丁目、川又商店（川又英一）白銀町、イワキヤ洋品店（綠川佳一）才槌小路、丸伊（伊關房次）二丁目、山家メリヤス店（山家重吉）二丁目、鶴屋商店（猪狩庄平）四丁目、渡邊呉服店（渡邊善吉）北目町、北川呉服店（北川鶴吉）研町、まるい（稻川春吉）材木町、マツヤ糸店（庭山丑松）二丁目、谷屋呉服店（粟谷喜多郎）新川町、大黑屋（馬目精一）三丁目、松屋呉服店（青木次男）才槌小路、山吉商店（吉田直吉）四丁目、たかや洋服店（永山小平）三丁目、諸橋呉服店（諸橋正次）新川町、ふでや洋品店（北川辰藏）三丁目、エビスヤ洋品店（熊田常次）鍛冶町

懸案の園藝指導實施

主任に三浦農學士を採用して

市産業經濟課ではかねて懸案の家庭の蔬菜園藝の指導をかねて各種農作物の種子の購入斡旋等も行い市民の要望に應へるため、今度東京農大出身の農學士で岩瀬郡摩兩郡農業會技師等を歴任、農業指導に深い經驗を有する三浦直次氏を市直營の元市役所跡の青果物直賣所主任として採用、管理のほか前記の指導斡旋をなさしめることに決定したなおこれに伴い現在の直賣所主任坂本氏は市本課勤務に轉ずることになった

これからが大切な指導

關場課長は右について園藝指導をいまさらといふかも知れないが、今後の指導及び農作物種子の斡旋等は最も大切なことである、市がこうした技術方面に力を入れていくことは決して無意義でないと信ずる、自分としては寧ろヒットの自信でいる、必ずや良き成果を三浦農學士の手によりもたらせられると信ずる、と大きな誇りとして語ってる

東西對抗庭球

豫想通り決勝戰へ

巧妙な作戰に不戰一組殘して 東軍見事第二次戰をものにす

東西對抗軟式庭球男子成年第二次戰の第一回戰は昨報の如く東軍四—五と西軍にリードされたが二回戰以後猛反撃に移り左の樣な戰績で三—一とリード三回戰も二—一とリードして四回戰で小川渡邊組の敢闘に依り遂に岩佐日向組を殘して見事二次戰をものにし豫想通り決勝戰に持ち込んだ

▲二次戰二回戰（東軍）（西軍）

（東軍）		（西軍）
宮川 本田	3—4	今井 三宅
小川 渡邊	4—3	渡瀬 齋藤
岩佐 日向	4—0	齋藤 江崎
磯部 石川	4—2	森 山名

▲三回戰

小川 渡邊	4—2	茂成 渡邊
岩佐 日向	4—1	淺野 石橋
磯部 石川	3—4	今井 三宅

▲四回戰

小川 渡邊	4—3	今井 三宅
岩佐 日向	不戰	

熱戰展開

成年男子決勝

一勝一敗のあとを受けた男子成年對抗の決勝戰は二十六日第二次戰に引續いて開催されたが午後三時までの戰績は次の通りで白熱的接戰にファンを喜ばせた

▲決勝一回戰

【東軍】		【西軍】
宮川 本田	4—1	安藤 本田
清水 齋藤	2—4	渡瀬 齋藤
小川 渡邊	2—4	淺野 高木
篠原 奥津	2—4	君田 江崎
山岸 鈴木	4—1	齋藤 山名
山木 本田	4—0	木村 吳
楠神 和住	2—4	茂成 渡邊
石山 志賀	3—4	今井 石橋
岩佐 日向	4—1	渡邊 三宅
磯邊 石川	4—2	正木 二條

女も油斷なりません

シテやられた星みどりさん

取縣郡吉妻村星みどりさん（二五）は去る二十三日午前一時頃平驛待合室で知り合った自稱横濱市鶴見田村令子（二五）母娘に水害で列車がいつ來るか判らぬからと誘われ、衣類十數點（時價四千円相當）入りのリュックサックを母親にあづけ令子と世界館の映畫見物にいった際に巧みに館内でまかれそっくり持逃げされた

メーヤー氏視察に來平

アメリカ映畫社日本配給を一手に受持っているセントラル映畫社部長チャールス メーヤー氏は二十七、八兩日の豫定で平地方洋畫ファンの狀況視察のために來平する

印刷勞組結成さる

平市内の印刷職工を打って一丸とする印刷勞働組合の結成會は二十五日午後一時から本社ホールで開いた、參加者三十五名、綱領規約を決定の上委員長に佐藤善之助副委員長の平澤直氏其他役員を夫々決定、印刷文化の向上に、封建性の打破に一路邁進することを誓って五時散會した

雨の殺人

女坑夫轢殺さる

好間村上好間字小館二八女坑夫稻田トミさん（三五）は二十五日午前十一時ごろ炭鑛引込線構内に停車中貨車の下に雨やどりをしていたが入換中の貨車がすべり込んで來たので貨車が走り出し逃げおくれて左腕と左大腿部を切斷間もなく死亡した

唐橋 村田 兩巡査轉出

平署司法形事唐橋力也巡査は坂下署へ、經濟係村田俊美巡査は郡山署へ轉任と決定二十三日付で發令された

いわき寸言

◇改善は遠きを、手元は見ぬふり
◇みのりの秋だが食べない秋
◇食う方法はヤミとインチキだけ
◇食へぬ—風は眞面目に働くこと

世に問う！ 第二いわきのイデオロギー
サウンド 心の底にくいいる 綠色に輝くスクリーン
一度見て陶然となり 二度見て感嘆の聲を放ち 三度見てその完璧さに驚く
公開迫る パラマウント超特作 スタンバーグ演出 ゲーリークーパー デイトリッヒ 主演の モロッコ
只今上映中 二十三日—二十七日 ベストテン第一位を狙ふ 東寶第一組合の傑作映畫 黒澤明演出の 素晴らしき日曜日
内郷 第二イワキ 電線十二番

衣料品の登錄に就て

一、期日は九月二十八日です
一、選擧區域は平市を含む石城郡全部ですから郡内どこの店に投票されても構ひません
一、投票は記名式ですが投票者の名前は發表されません
一、投票用紙は各市町村の投票所で渡されます
一、立候補店名は各投票所に掲示されます
一、御買物は登錄に當選した店ならどこからでも自由に出來ます
一、當選した店は洋品呉服區別なく綜合したものを取扱ひます

平地區纖維商業組合

古文書紙上公開　21

飯野文書解説

猪俣金五郎

二一　伊賀盛光（六）

著到狀と言ふのは、大將の出陣の際に、諸方から馳せ參じた人が、自分の軍勢を率いて到著した旨を屆け出る書狀で、大將もしくは部將が證判する。此の書狀では、佐竹氏の部將沙彌行円が證判している。十一月二日の御教書と言うのは、此の日、尊氏が諸國の將士に檄文を出したが（資除は弟直義の名義であつた）盛光の所へも其の一通が來たのである。十二月二日の御催促と言うのは、佐竹貞義（入道道源）の出した書狀である事が、後に掲げる盛光の軍忠狀で明瞭である。

列記された人々は、盛光の一族であつて、中でも左衞門次郎貞長は、翌年（建武元年）結城親朝の下に奧州引付（訴訟を司る役）となつて、陸奧守顯家の下僚であつた。系圖によれば、盛光、貞長、光重の三人は兄弟であり、光俊は前記の如く大叔父に當る前に掲げた行円の書狀に『御參御方之條賓貴々目出相存候』とあるのは、此のように一族打揃つて馳參じた事を言うので、盛光か向背の態度を明かにしたのは、建武二年十二月にあつたと見られる。

盛光の戰陣に關する書狀は四十通もあつて、到底全部を揭げる事は出來ないから、解說は數通に止めるが、此の書狀以後のものは、凡て北朝方について活躍した事を語るものばかりである。最初の中は常陸國から岩城郡の南部にかけて、小田治久、廣橋經泰を始め、南朝方の諸軍と戰つたので、多くは佐竹氏の手に屬していた。

目　安

伊賀式部三郎盛光軍忠事

右爲誅伐常陸國小田宮內權少輔治久以下凶徒等大將佐竹刑部大輔義篤發向之間屬一方大將佐竹三郎入道自源手馳向小田城今年（建武四）二月廿四日同廿六日同廿九日度々致合戰軍忠三月十日治久出向國府原之間盛光懸入多勢之中致散々合戰こう隨而若黨にへ田彥太郎分取了麻續兵衞太郎御敵二人切捨こう此條小栗十郎左衞門尉見知上者且預御注進且賜御判爲備後證目安言上如件

建武四年三月　日

一見　了（花押）

『右は、常陸國小田宮內權少輔治久以下の凶徒等を誅伐せんが爲に、大將佐竹刑部大輔義篤發向の間、一方の大將佐竹三郎入道自源の手に屬して小田城に馳せ向い、今年二月二十四日、同二十六日、同二十九日、度々合戰の軍忠を致し、三月十日、治久、國府原に出で向うの間、盛光、多勢の中に懸（驅の誤）入り、散々の合戰を致しをはんぬ。隨つて、若黨いにへだ彥太郎分取り了んぬ。麻續（正しくは麻續と書いて『をみ』と讀む）兵衞太郎、御敵二人切捨てをはんぬ。此の條小栗十郎左衞門尉、見知る上は、且つは御注進に預かり、且つは御判を賜はり、後證に備へんが爲に、目安言上件の如し』

建武三年（延元元年）十月、盛光は佐竹義篤の瓜生城に馳せ參じ（七月二十二日の著到狀がある）瓜連城に小田治久廣橋經泰を攻めて、之を落したが、（十二月の軍忠狀がある）退いて小田城に據つた治久を、更に南下して追擊したのである。書狀の證判は佐竹義篤である。

磐女の記念行事計畫
バザーや音樂演藝會等を

磐城高女では新憲法發布記念として十一月三日の明治節にバザーを開催、先徒の手になる手料理を教師及び、父兄に披露するが、同時に音樂や演藝會をも大々的に開催する計畫で目下種々立案を急いでいる

サービス採點で湯本驛が一等
常磐台の山區調査

湯本町の官公署を常磐炭鑛台の山區の人々のサービス採點をした結果がこの程湯本驛宛に左の樣にハガキで屆いた

（原文）新らしい驛長さんが就任されてから湯本驛の玄關は急に明るくなつて參りました、貴官及び驛員各位の御努力を感謝すると共に今後も一層の御厚配に預りたいと存じます、御參考までに町內各官公署のサービス採點表をお目にかけます

順位	點數	
1	八二	湯本驛
2	六七	學校
3	六六	役場
4	五二	湯本局
5	四三	警察

明日に惱む氷屋さん

秋風の訪れとゝもに市內の氷水屋さん九十余軒は早くも音をあげ閉店休業の狀態を示している、現在營業をつゞけている業者はわずか十軒足らずで、休業をつゞける大半の業者は明日の生活にもこまると今後の對策に惱み拔いている

AMPクラブ役員顏觸決定
三十日に試寫會　アメリカ交驩樂

アメリカ映畫愛好者を以つて組織するアメリカ、モーション、ピクチュア、クラブでは先般柔樂館で美人劇場試寫會を兼ねて發會式を行つたが、役員未定のため去る二十四日夜委員會を開いて左の如く陣容を決定した、なお會長には鈴木傳明を滿場一致で推薦し交渉することゝし又顧問には知名文化人を推すことに決つたが事務所二丁目山家メリヤス店內に置き、三十日にはアメリカ交驩樂の試寫會も催す

◆委員長山家重三◆總務課企畫係阿部康雄、同文化係石川喜好◆出版課調査係北村正三、同編輯係川崎五朗◆宣傳課通信係柴田春雄、同宣傳係楢島止◆會計佐藤善一

觀光協會支部設置協議

縣觀光協會磐城支部の設置協議會は二十六日午前十時から平市役所特別室に開いて種々協議したが、來月中旬發會式を擧げることに決定した

榊原教授の講演會

平生活協同購買利用組合では二十六日夜七時から本社ホールに縣生協連合會長、元福島經專教授榊原巖氏を招いて日本經濟の實相と生活協同組合と題する講演會を開く

てるさん殺の手掛りもつか

小名濱町大字大町生れ住所不定馬上申勝（三八）は竊盜容疑で豐田署に檢擧された旨平署に通報があつた、同人は湯本町の比佐てるさん殺しともなんらかの手がゝりがあるのではないかともみられている

御挨拶

お暑い折皆々樣益々御清祥の御事お悅び申上ます、私義戰時中廢業し皆々樣に非常なる御不便を相掛け誠に申譯ありませんでした

今回殘存業者と話合の上組合へ加入し從前の營業に復歸いたしました今後皆々樣のお店として御期待に添ふ樣努力致します

何卒舊に倍し精々御利用御引立の程伏して御願申上ます

小名濱町西町（電二一八呼）　安田屋吳服店　泉驛前　渡邊武

吳服　雜貨　龜屋商店　江尻滿

小名濱町横町二一　小野吳服店　小野遠四郎

小名濱町本町六〇　紙屋吳服店　佐藤大三郎

小名濱町古港一六一　サカエヤ洋品洋服店　本間良平

小名濱町古港三　伊勢丹洋品洋服店　丹賢一

小名濱町橋本四（電二〇四）　樋口吳服店　樋口二郎

衣料品登錄
石城郡內の皆々樣
とうぞ信用の店
山吉商店へ
御登錄下さい御願ひします
平市四丁目
吳服洋品の店　山吉商店

石城の皆樣に御願い
絲糸類、手編糸類、婦人小供服地等で
皆樣のハシモトヤとして
永年御ひいきを蒙いて參いりました、ハシモトヤに今度の登錄制に際しまして是非御投票下さる樣御願い申上ます
平市銀座街　ハシモトヤ糸店　電十四番

御願ひ
今回實施せらるゝ衣料品配給所登錄には公正な配給を皆樣の店
キクチ洋品店　にお願ひ致します
平市田町驛前　菊地一郎

御願ひ
此の度衣料品店の登錄に付いて御伺ひ致して御願ひする所でしたが手不足の爲御伺ひ出來ませんでした二十八日には是非（ふでや）へ御同情下さる樣御願いします
平市三丁目　ふでや洋品店